

# ベストマッチ<sup>®</sup> タマネギ用664

## 16-16-14

化成肥料と肥効の異なる3種類の被覆肥料の配合で、全量元肥により、タマネギに好適な肥効が定植時から収穫時まで持続します。

<b>N</b>	窒素（化成）	1.1 kg
	窒素（被覆）	2.1 kg
<b>P</b>	りん酸（化成）	3.2 kg
<b>K</b>	加里（化成+被覆）	2.8 kg

（1袋20kgあたり）

### 特長

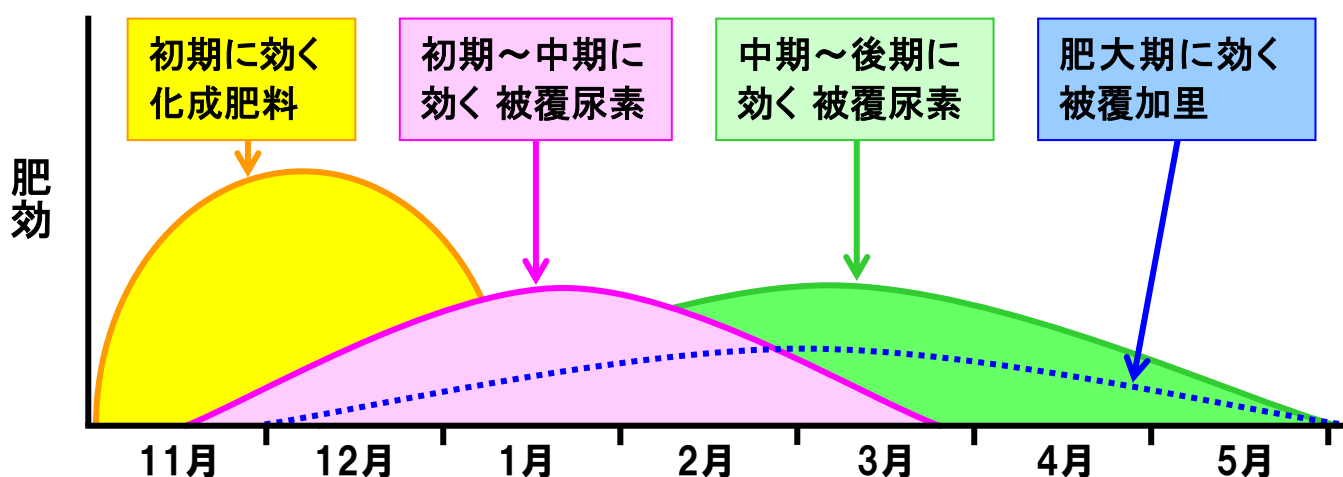
#### 1. 中晩生品種のタマネギ用に設計した肥料です。

秋から冬に定植し、翌年の5月～6月に収穫するタマネギ用に、生育初期に必要な速効性の化成肥料と、生育中期・肥大期に効く2種類の被覆尿素、肥大期に効く被覆加里を配合しています。

#### 2. タマネギに好適な肥効が収穫期まで持続します。

窒素肥料がゆっくり溶出する被覆尿素を配合しています。高成分ですがじっくりと効き、冬期の生育が安定します。また、肥大期には被覆尿素と被覆加里が効いて肥大を促進する一方、収穫期には肥効が切れて貯蔵性の高い球が形成されます。タマネギの省力・安定生産に好適の肥料です。

### ベストマッチタマネギ用664の肥効イメージ(11月初旬施用の場合)



### 施用量・施用方法

施用量は地力により異なりますが、120～180kg/10a(窒素成分量で19.2～28.8Kg)が標準です。慣行の窒素量に合わせて施用量を調節して下さい。堆肥やりん酸・石灰等の土壤改良材は従来通り施用して下さい。従来の元肥施用時に本肥料を全量混層施用して下さい。